



【母親委員とは】

様々な活動を通して『母親の目線』から子供たちと学校をあたたく見守りサポートしていきます。
主な母親委員会の活動を紹介します。

- 体育着リユース活動
- 資源回収でのビン回収作業
- 山形市 PTA 連合会、拡大母親委員会への参加
- 学校保健委員会への参加
- 会報「笑顔」発行

第 70 回 日本 PTA 全国研究大会 山形大会に参加しました

令和 4 年 8/26(金),27(土)に日本 PTA 全国研究大会が行われました。
「令和の日本型学校教育」で目指す学びの姿とは。実際の教育現場でどのようにメディア・リテラシー(情報活用能力)が育成されているか。これからの ICT 環境整備の在り方や問題点を理解した上で、私たち保護者が果たすべき役割とは何かをパネルディスカッションを通して考える機会を得ました。

【講演】メディア・リテラシー育成における学校教育と家庭教育の役割

【講師】佐藤 和紀氏(信州大学 教育学部 准教授)

参加した母親委員の感想を紹介します。

実際の教育現場でどのようにメディア・リテラシー(情報活用能力)が育成されているのか、またこれからの ICT 環境整備の問題点のあり方を理解した上で保護者が果たすべき役割は何なのか等を考えるきっかけとなりました。情報が多様化する中で、何が正しい情報なのかを判断することが難しくなっています。「そこにある情報」のみでなく、複数の情報や反対意見を踏まえた上で「自分はどうか」「本当に知りたい情報なのか」「活用していける情報なのか」を考え、自分の意見を持てるようになることが大切であるということを再認識することができました。今後、子供達にも伝えていきたいと実感しました。

学校での取り組みで「メディア・コントロール」という言葉は知っていましたが、【メディア・リテラシー】という言葉は初めて聞く言葉でした。私達親世代の考えている常識が、今の子供たちには通用しない。情報があふれている現代に生きている子供たちが、自分が生きていくために必要な情報を、自分自身で選んでいくために、必要な知識について、親も一緒に学んでいくことが必要とのことでした。実行できるかは不安ですが…また、上山市内で取り組まれているウィズメディアの取り組みについて、非常に参考になる実践報告を聞くことが出来ました。ウィズメディアを一時的な取り組みではなく、長期的に実践するには地域全体での根気強さが必要ということでした。

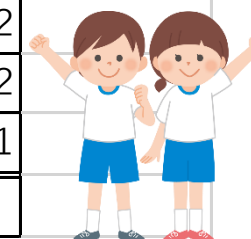
体育着リユース活動について

保護者の皆様には、体育着回収にご協力いただき誠にありがとうございます。
例年、出羽地区文化祭でのリユース販売会を行っていましたが、コロナ禍となり感染予防対策で2年ほどリユース販売会の活動を見合わせておりました。
今年度は出羽コミュニティセンターを会場にお借りし、在校生を対象に R4.10/8(土)に販売会を実施することができました。また R5.2/3(金)には新入生保護者説明会にて新1年生に向けてのリユース販売会を実施することが出来ました。ありがとうございました。



【サイズ別 在庫数】※R5.2/3 時点

	長袖	長ズボン	半袖	半ズボン	サイズ別計
110cm	1	0	0	1	2
120cm	10	4	2	14	30
130cm	7	2	7	7	23
140cm	5	2	3	2	12
150cm	0	0	1	0	1
160cm	4	2	3	3	12
170cm	0	0	0	2	2
LL	0	1	0	0	1
合計	27	11	16	22	



★体育着回収のお願い★

令和 5 年 3 月 24 日(金)はお世話になった先生方とのお別れ会です。
昇降口前に体育着回収 BOX を設置しますので、お子さんを通しての回収にご協力ください。特に大きいサイズの体育着が不足しています。
来年度の体育着リユース販売活動の実施に向けて、ご家庭で不要になる体育着がございましたら、ご提供頂けますと幸いです。何卒ご協力くださいますようお願いいたします。



山形市 PTA 連合会 拡大母親委員会に参加しました

令和 4 年 11/5(土) PTA 連合会主催の「いのちの大切さ学習会」が行われ、母親委員会から 3 名が出席しました。先生の経験談を交えながらの講義で、大変興味深い内容でした。

【講演】発達障害とは～正しい理解と正しい対応のために～

【講師】花輪 俊男氏(FR 教育臨床研究所 所長)

発達障害とは…

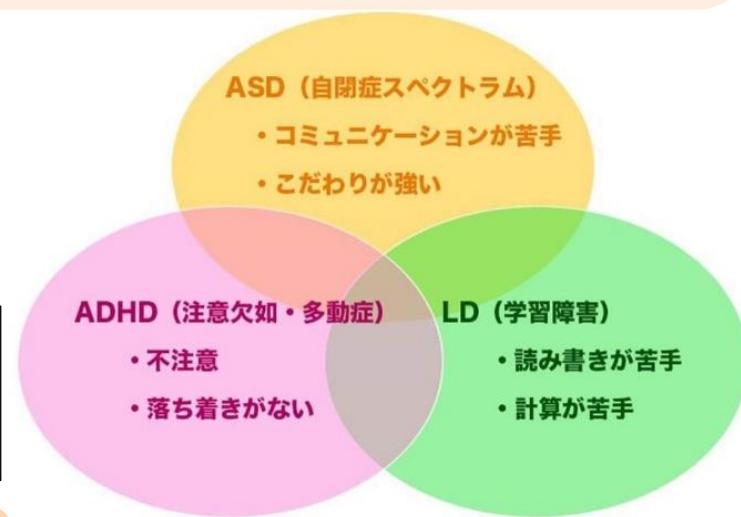
生まれつきの脳の機能障害です。
養育・家庭環境によるものではありません。

まわりの人から「困った子」と思われがちですが、
実際は『周囲の人の話す言葉や指示が理解できずに
何をどうしていいかわからない「困っている子」』です。

この子が理解できる指示・理解を
行うことが大切なのです。



教育こそ最大の治療ない



本人にとってわかりやすい指示

- ・1 回で 1 つの指示
 - ・全体の指示はわかりにくい
→個別にわかるようにする
 - ・第 1 人称現在形
→NG/OOしましょう
OK/OOします
 - ・指示の中に数字・右左を入れる
→意識を他に向けるように
 - ・視覚化する→見ただけで分かるもの
 - ・選択させる→○or○
○or×
 - ・ルーティンを決める
 - ・具体的に示す
- ★否定の命令形は理解しにくい★

自分にとってどんな配慮が必要か
知ったうえで、幼いころから
「働くことは人として大事なこと」
と教えていく。

参加した母親委員の感想を紹介します。



発達障害に対しての関わりが本格的に始まったのが平成 19 年と比較的最近のことで、普通学級に発達障害の可能性のある子供が 6.3%もいることに驚いた。
協調性がなく「困った子」と言われてしまう子供は実は「困った子」ではなく、相手からの指示や言葉の意味を理解できずに、何をしたいかわからず「困っている子」であるとの話に自然と納得することが出来た。子供の困っていることに、大人が応えていくことが必要で、まずは「耳より目！」ひと目見ただけで分かるように視覚化することが有効であるとのことだった。
現在は発達障害に対する様々な配慮も進んでおり、発達障害に対する理解も進み始めている。今後も子供たちが安心して大人になっていける取り組みが広がっていけば良いなあと感じた。

「発達障害」という言葉は耳にするけど…と思い、今回の学習会に参加しました。
花輪先生は穏やかな口調でギャグやユーモアを交えながら実体験や様々な事例を聞くことが出来ました。「なるほどなあ」と納得させられるような内容がたくさんあり、あっという間に時間が過ぎていきました。1人ひとりの障害の内容も違うので、それぞれ周りがいろんな工夫をして子どもの力を伸ばしてあげることが大切で、どんなことを難しく感じ、どうすれば乗り越えられるか、どんなアプローチの仕方が大事なのか、とてもわかりやすいお話でした。
困っているのはその子ども自身だという視点を忘れずにどの子どもにとっても安全・安心だと思える環境を整え、様々な体験を積み重ねていくことが「大切ないのち」を守る親の大切な役割だと改めて気づかせていただきました。

今回、発達障害の正しい理解と正しい対応を考える大切な機会を与えて頂きました。
数年前まで発達障害は、イメージ・知識の偏り・誤解を受けやすいものでしたが、近年では高校入試・大学入試における特別な配慮や、ハローワークでの取り組みもされています。
人は誰でもその人なりに当たり前に生きる権利があり、まずは発達障害を有する子供・発達障害傾向のある児童一人一人を理解し尊重していくことの大切さを痛感しました。子供にとっての物の捉え方・大人の言葉かけの違いで、子供自身の生きやすさが変わるのだと思いました。
障害の有無に関わらず、親も学校の先生や地域社会と連携協働し、子供たちを見守っていきたいと思いました。また、子供への対応に余裕を持って接し、子育てに役立てていきたいものです。

拡大母親委員会からのお知らせ

★生理用品の無料配布のお知らせ★

経済的な理由などで生理用品の購入が困難な市内在住の女性を対象に生理用品の配布を行います。
問合わせ:山形市男女共同参画センター「ファアラ」
☎:023-645-8077

★子育て支援“ほほえみ”食堂★

毎月1回 第1日曜日(午後4時～6時開催)
テイクアウト専門 料金無料 完全予約制
問合わせ:山形市大字古館31
山二醤油醸造(株)内
子育て支援ほほえみ食堂
☎/FAX:023-643-2513
※詳しくは学校から配布のプリントをご覧ください。

令和 4 年度も母親委員会の活動にご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。
次年度は更に充実した学校生活を子供たちが送れることを心から願っております。

出羽小 母親委員会